

みみよい

なお知らせ！



第 46 号

平成 30 年 1 月 15 日発行

佐賀県聴覚障害者
サポートセンターだより

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日

佐賀インターナショナルバルーンフェスタ 第1回写真コンテスト

佐賀平野の秋の風物詩「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」の聴覚障害者・情報支援者限定の写真コンテストを全国に初めて呼びかけて実施。九州はもとより大阪府、徳島県からも応募がありました。レベルの高い力作揃いでした。12月24日表彰式。

『バルーンコンダクター』砂子田 智さん (筑紫野市)



手話通訳者を真ん中にする
構図にしました。

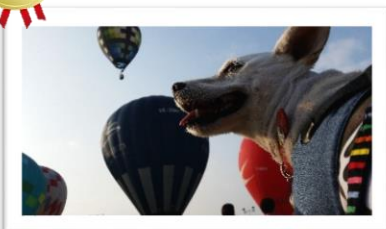


最優秀
賞

受賞作品はアングルや狙いどころをおさえて何を訴えたいかが分かる作品であった。タイトルも素晴らしい。

審査員
特別賞

『わんだフル』辻田 亜紀さん(佐賀市)



「愛娘(犬)の写真で
受賞できて、
嬉しくて幸せです♡」



審査員
特別賞

『空と地上とのあいだに』森本 悦子さん(堺市)



「初めての一人旅で、初めて
のバルーンフェスタ。周りの
方に教えて頂いて、受賞でき
て嬉しいです。来年は友達も
一緒に参加したい。」



優秀
賞



『ラ・モンゴルフィエ・
ノクチューン』
北野 幹亮さん
(大町町)



『ピース!』
利光 未希さん
(筑紫野市)



『ペアルックでお散歩』
宮本 泰弘さん
(唐津市)



『熱い眼差し』
寺井 佳子さん
(大阪市)



『大空へ舞上がれ』
中島 和次さん
(佐賀市)

シリーズ(2)

山口相談医のひと言コメント

「聴こえにくくなった」という時は、
まず耳鼻科に相談しましょう！

聴こえが悪くなったら、まずは耳鼻科に行くものだ、と耳鼻科医としては、思っていますが、意外とそうではなく、メガネ屋さんや補聴器屋さんに直行される方も多いそうです。

ですが、ちょっとお待ちください。確かに補聴器が必要になることも多いのですが、中には治療によってよくなる場合もあります。実は、耳あかのために聞こえにくくなっている方もあります。「最近聞こえにくくなって困っている」という方で、実は耳あかのために聞こえにくくなっており、取り除くとスッキリ元どおりということもあります。

「急に聞こえなくなった」という場合にも、まずは突発性難聴などを疑いますが、実は耳あかが原因であった、ということもあります。このような場合にお店に行かれる、確かに聴力が低下しているでしょうからそのまま補聴器購入ということにもなりかねません。

面倒でもまずは耳鼻科に相談してみてください。

九州・沖縄ブロック施設長会議
(会場・沖縄県 12月7日～8日)

電話リレーサービスと遠隔通訳について全国情提の小野副会長(熊本)と沖縄から実績と課題について報告がありました。また、各県の施設の現況と課題の報告、意見交換を行いました。



早瀬講師

第17回佐賀県障害者文化芸術作品展が佐賀県立博物館で開催。工芸の部で平原圭介さんの『ビーズアート「バルーンフェスタの夜景」』が金賞を受賞されました。120cm×90cmの枠に40,368個のビーズを使用した大作です。



聴こえと健康いきいきセミナー

～認知症予防プログラム体験会～

平成30年1月31日(水)13時30分～15時

※要予約です。赤外線補聴援助システム・文字による情報保障がついています。

ろう者向け日曜教室 平成30年1月28日(日)10時～12時
肥前さが幕末維新博覧会について

難聴者向け日曜教室 平成30年1月20日(土)10時～12時
カラス問題について

編集後記：心機一転、新しいことにチャレンジしたいですね。(M.J)



ろう者向け

「手話で学ぶ日本語のあれこれ」

研修の軸は「コンテキスト(文脈)」。
ろう者にとって日本語を理解し習得することは困難なこと。手話では理解できることも日本語(書きことば)でのやりとりで、相手に大きな誤解や不快な思いを与えてしまうこともある。

研修の中で出された事例。バレエ部監督から失敗を繰り返している選手に対して「何年やっている?」と言われたとき、「はい、10年です」と答える。会話としては成立しているが会話のながれを考えると、この場面は「すみません」となる。

聴こえる者が声色等から自然と身についてきた当たり前のことが、聴こえないことによる情報の少なさでこんな場面も起きてしまう。

聴覚障害者にとって日本語力は、職場や社会生活の中で生きていくために必要不可欠なものだと痛感してもらえたか。



通訳者向け

「ろう者に伝わる手話通訳とは」

早瀬さんは、講演をおこなったことがない都道府県はないそうだ。20年間の講演回数は1300回を超え、通訳の同行はほとんどない。それは地域のことばで参加者に伝えてほしいからだ。

通訳は【死活問題】である、なぜなら派遣にでるということは「プロ」ということ。「技術面はもちろんだが、一番の問題は通訳者としての意識にある。伝えることの厳しさや重要さを頭において通訳をしなければならない」と通訳者の心構えを説かれた。

ろう者、通訳者向けともに、早瀬さんから心のこもった力強いメッセージが寄せられました。

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12 (佐賀商工ビル4階)

TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705

メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp

ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30 ~ 18:00

<閉館日>

毎週月曜日、祝日、年末年始